

今年度の組織・園テーマ

4月に入園・進級した子ども達も、園生活にだいぶ慣れてきたようです。各々がやりたい遊びを見つけたり、友達と集団遊びをしたり、スポーツ教室に初めて参加したり…特に在園児は学年が上がり、遊び方を見ていると成長を感じる場面をよく目にします。今までと同じ遊びが少し複雑になっていたり、ルールが増えたり、より丁寧に体を動かして細かい所作が出来るようになっていたりしています。

今年度も子ども達の『無限の可能性』を広げていけるような保育を行います。17年目を迎える横浜りとりぱんぷきんずの組織テーマは【+1 STEP (プラス ワン ステップ)】です。積み重ねてきた園の良さは継続しながら、子どもの主体性を育む保育を模索していき、子どもにとって必要な保育を職員全員で考え、対話からより良い保育を目指していきます。コロナ禍で保育活動が制限されることもありますが、社会では「with コロナ」と、いろいろなことが少しずつ変わってきています。リスクを避けることで子どもの成長に弊害があることも考え、安全と感染対策をしつつ、発育に大切なことは出来るだけ取り入れていきます。本来の保育園のあるべき姿は、その年齢に体験出来る環境を整えることが大切だと思います。子ども達が『本物の体験』をする機会を多く持てるように、さまざまなことを提供していきます。

お昼のピュッフェ活動が長らく出来ていなかったこともあり、再開した今は例年に比べるとトングの持ち方がぎこちなく、食べ物を掴むのが難しい子も見受けられます。今までであればもう少し早い段階で習得しているものも、実践が出来ないと育たない状況がよくわかりました。このように、技術面は繰り返し取り組むことで上手になっていきます。一方、心の育ちも乳幼児期にはとても大切です。幼い頃の遊びや人間関係から、だんだんと好きなもの・嫌いなもの、得意な事、苦手な事などを経験して、いろいろなことを感じて、人格形成されていきます。園でも、出来るだけ丁寧で正しい言葉を子ども達に話すようにしています。例えばトラブルがあれば、年齢によって職員が間に入り、お互いの気持ちを代弁することで理解し合ったり、どのようにすれば上手くいくか、など話したりします。また、絵本や普段の生活の中で「心育」に繋がるような話もしています。まだまだこの年齢には言葉だけで伝えても想像するのは難しいですが、それでも伝えることが大切だと思います。心が豊かになるのは人との関わりや、本物体験で心が動いた時なので、その時期に適した経験が出来る保育展開、言葉掛けを、今年度も大切にしていきます。

園テーマは【+RAINBOW】(+ (プラス) を 10 と読み、7色の虹を足して 17年目を表現しています。) 組織テーマ、園テーマに加え、クラステーマ、その他さまざまな日々の活動を充実させ、子ども達の個性がのびのびと育まれる園づくりをしていきます。(北嶋)

